

目 次

1 開会の挨拶	3
成田 友代 東京都保健医療局技監	
2 献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式	4
東京都知事感謝状贈呈式	
3 献血セミナー	5
— 献血の現状と課題 —	
鹿野 千治 東京都赤十字血液センター	
4 基調講演	13
輸血副反応(TRALI/TACO)の最新知見と改訂第2版輸血有害事象対応ガイドライン	
座長 澤村 佳宏 東京都赤十字血液センター	
演者 岡崎 仁 日本赤十字社 中央血液研究所	
5 輸血療法Q&A	37
座長 正本 庸介 東京大学医学部附属病院 輸血部	
小林 博人 東京女子医科大学 輸血・細胞プロセシング科	
(1) 大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン(第2版)について	37
演者 佐藤 智彦 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血・細胞治療部	
(2) 危機的出血への対応ガイドライン改訂版について	48
演者 香取 信之 東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座	
6 輸血療法シンポジウム	60
テーマ：輸血療法の医療連携	
座長 牧野 茂義 東京都赤十字血液センター	
水村 真也 虎の門病院 輸血・細胞治療部	
オーバービュー	60
藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
(1) 島嶼における病院前輸血-検査科の取り組み-	64
一ノ瀬 夏子 東京都立広尾病院 検査科	
(2) 母体救急における病院外輸血	74
山下 智幸 日本赤十字社医療センター 救命救急センター・救急科	
(3) 同一法人病院間の血液製剤有効利用について	86
遠藤 彩子 東京都立多摩総合医療センター 検査科	
(4) 在宅輸血における医療連携	93
大島 久美 聖マリアンナ医科大学病院 輸血・細胞治療センター	
7 閉会の挨拶	102
藤田 浩 東京都輸血療法研究会世話人代表	

1 開会の挨拶

東京都保健医療局技監
成 田 友 代

東京都保健医療局技監の成田でございます。

本日は、御来賓の皆様をはじめ、御来場の皆様におかれましては、御多忙のところ「令和七年度献血功労者厚生労働大臣表彰状伝達式及び東京都知事感謝状贈呈式」に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

開催に当たりまして、御挨拶申し上げます。

本年度は、厚生労働大臣表彰状を一団体、厚生労働大臣感謝状を二団体、また、東京都知事感謝状を三団体の方々が受賞されました。受賞された皆様には心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

本日表彰をお受けになられました皆様方には、職場や地域で、長年にわたり献血活動に御協力いただいております、東京都の血液事業は、こうした方々の尊い善意に支えられて成り立っていることはいまでもございません。

ここに改めて東京都を代表して、受賞されました皆様のこれまでの御功績に対し、深く敬意を表しますとともに、日頃から献血に御協力いただいている方々、関係者の皆様の御尽力に心から感謝を申し上げます。

さて、輸血医療に欠かすことができない献血でございますが、昨年度、都内では、延べ五十八万人の方々に御協力を頂き、その供給量は、全国の一割以上を占めているところでございます。

東京都では、厚生労働省や日本赤十字社、各関係機関の皆様と連携し、将来の献血を支える若い世代を中心に広く都民に献血への御理解と御協力を呼びかけるなど、普及啓発活動に努めております。

今後とも、東京都の血液事業への一層の御理解を賜り、引き続き、献血の推進に積極的な御協力をお願い申し上げます。

結びに、本日表彰をお受けになられる皆様に重ねてお祝いと感謝を申し上げますとともに、御列席の皆様の御健勝とさらなる御活躍をお祈り申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2

献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式 東京都知事感謝状贈呈式

厚生労働大臣表彰状受賞者（1団体）

（敬称略）

東洋大学

厚生労働大臣感謝状受賞者（2団体）

（敬称略）

國學院大學 体育連合会

富士通フロンテック株式会社

東京都知事感謝状受賞者（3団体）

（敬称略）

A L S O K 株式会社

株式会社レオパレス21

大田区赤十字奉仕団矢口地区連合分団

3

献血セミナー

献血の現状と課題


東京都赤十字血液センター
鹿野 千治

ただ今ご紹介いただきました、東京都赤十字血液センターの鹿野と申します。このようなお時間をいただいたことに関係者の皆さまに感謝申し上げます。それでは献血の現状と課題についてご説明をさせていただきます。

【スライド1】

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター
鹿野 千治

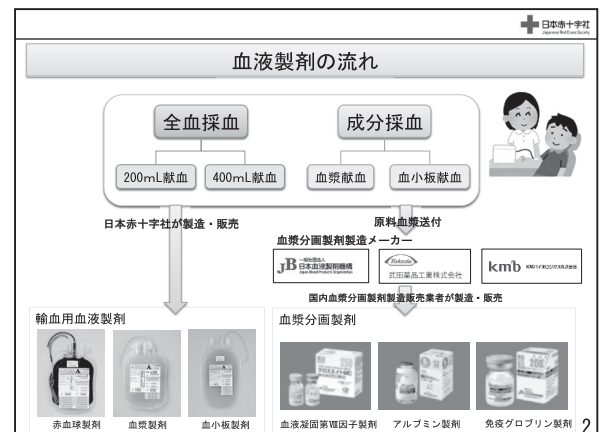


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和7年11月28日(金)
第24回 東京都輸血療法研究会

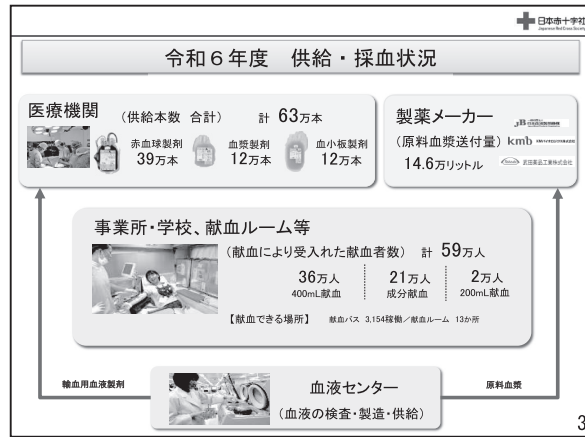
まず献血の流れですが、献血には全血採血と血漿採血がございます。全血採血につきましては200mL、400mL献血、また成分採血につきましては血漿採血、血小板採血がございます。輸血用血液製剤につきましては左下段にございますとおり、日本赤十字社が製造・販売を行い、血漿分画製剤につきましては血漿分画製造メーカーが製造・販売している状況になります。

【スライド2】



【スライド3】

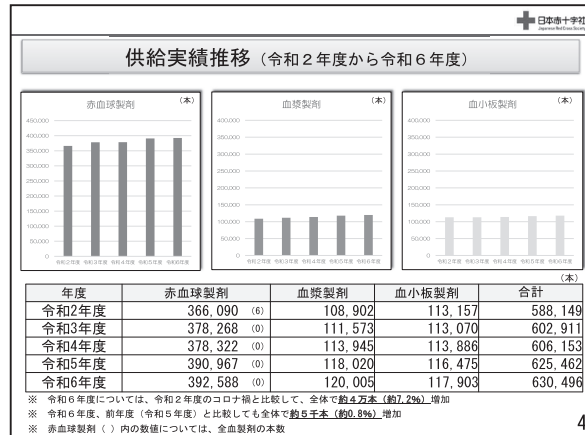
次に令和6年度の供給・採血状況になります。医療機関への供給本数につきましては約63万本、血漿分画製剤の送付量につきましては約14.6万L、献血により皆さまにご協力いただいた人数は約59万人の状況になります。



3

【スライド4】

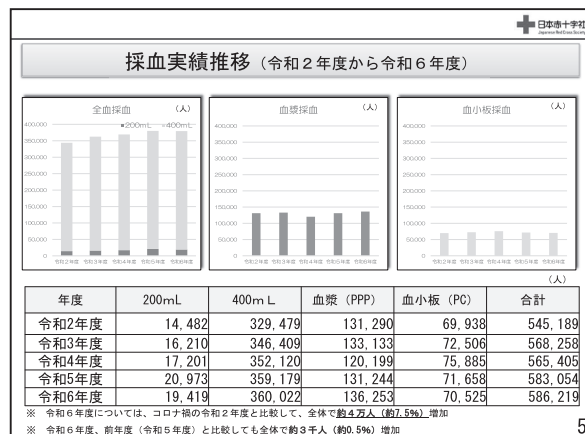
次に供給実績の推移になります。令和2年度、コロナ禍からお示したものとなりますが、右下段の表にございますとおり令和6年度につきましては63万496本の供給状況でございます。また令和2年度のコロナ禍におきましては、58万8,149本と約4万本ほど増加している状況です。また令和5年度と比較しますとほぼ横ばい、約5,000本増加した状況になります。



4

【スライド5】

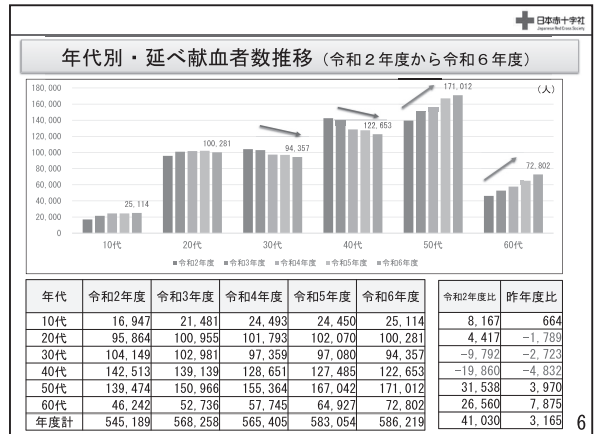
次に採血実績の推移になります。採血の実績につきましては、令和6年度58万6,219名の方々にご協力いただいております。またコロナ禍、令和2年度の54万5,189人と比較しまして約4万人ほどの増加、また令和5年度は、58万3,054人と、約3,000人増加した状況になります。



5

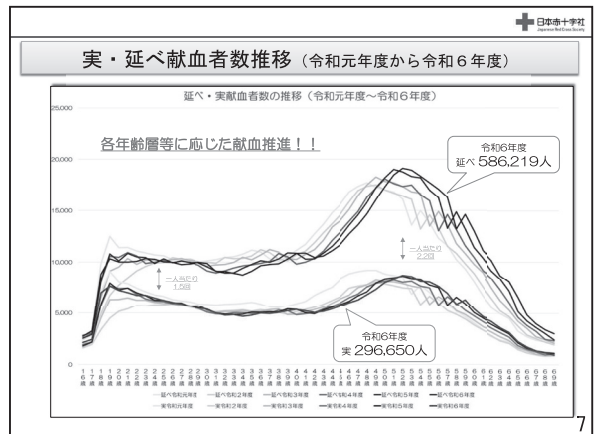
【スライド6】

次に年代別・延べ献血者数の推移になります。上段のグラフで分かるとおり、30代40代が減少、50代60代は増加傾向にある状況になります。また右下段の表にございますとおり令和6年度、令和5年度と比較しましても3,165名増加となっております。しかしながら20代30代40代につきましては減少している状況です。またその左側の令和2年度のコロナ禍と比較しますと、約4万1,030名ほど増加しております。10代20代の増加、50代60代の増加に比較しまして、やはり30代40代が減少しているといった状況でございます。



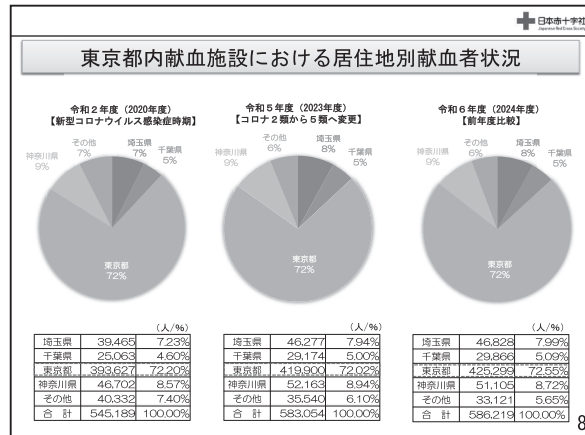
【スライド7】

次に実献血者数・延べ献血者数を各年代ごとの折れ線グラフになります。下段の折れ線グラフにつきましては実献血者数、上段の折れ線グラフにつきましては延べ献血者数の状況です。実献血者数につきましては1年間で複数回献血をしている方についても1回でカウントさせていただきまして、令和6年度につきましては29万6,650人の方々にご協力をいただいている状況です。一方で延べ献血者数につきましては58万6,219人と、全体で1人当たり約2回ほどの献血をいただいている状況です。一方で10代の献血者数につきましては1人当たり1.5回ほど、50代から60代につきましては1人当たり2回以上の献血をご協力いただいております、医療機関からの需要に応えられている状況になります。



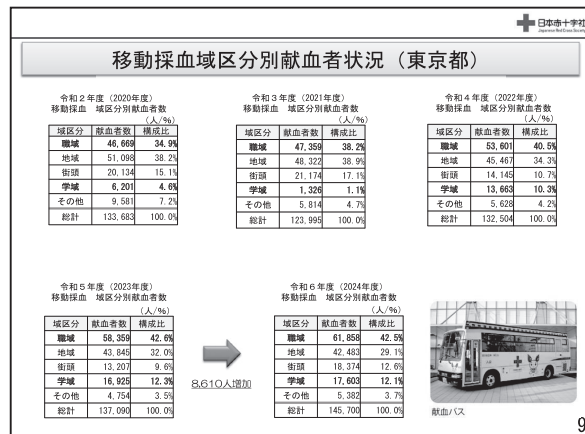
【スライド8】

次に東京都内の献血施設における居住地別の献血者状況になります。左側が令和2年度の献血の実績、中央が令和5年度、右側が令和6年度(昨年度)の状況になります。東京都内に在住し、都内で献血している方が令和2年度は約72%の状況です。これは令和5年度、令和6年度も変わらないような状況ですが、下段表の合計欄はかなり協力者が増加している状況になります。ただ大都市圏といわれる愛知県、大阪府については、約80%を超えている状況がございますので、一つの課題ではないかと考えてございます。



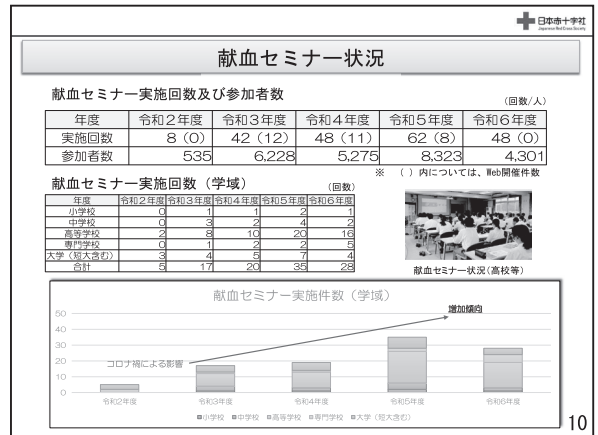
次に移動採血の域区分別の状況になります。移動採血が職域・学域等々に献血を実施している協力者人数になります。令和2年度、コロナ禍の状況ですけれども学域献血を見ていただくとおり6,201人、令和3年度についてもコロナの影響により1,326人の状況が続いておりました。令和6年度につきましては学域献血が1万7,000人を超えるご協力をいただき、コロナ禍前にもどりつつあります。この令和2年度、令和3年度につきましては、学域での献血が実施できないといった苦労もありましてこのような人数になっている状況です。また職域献血につきましては、コロナ禍において、約4万2,000人ほどのご協力いただいております。令和6年度につきましては6万1,000人を超えるご協力をいただいている状況です。在宅勤務等々がございまして協力が少ないような状況が続いていた状況で、令和5年度、令和6年度についてはある程度コロナ禍以前の状況に回復をしてきている結果になってございます。

【スライド9】



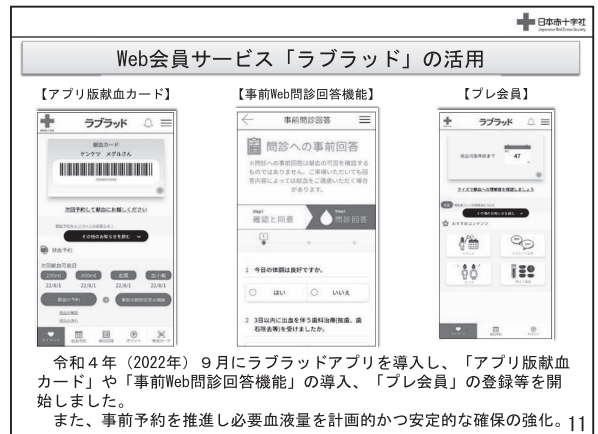
【スライド10】

次に献血セミナーの状況になります。小・中・高等学校を中心に献血セミナーを実施しております。令和6年度につきましては実施回数が48回、参加人数が4,301人の状況で、令和5年度と比較しますと減少している状況がございますけれども、献血現場に行く回数が増えたことによって、セミナーが減少してしまっている状況がございます。今後も、献血の知識を学んでいただきたいと思いますので、献血セミナーの強化をしていきたいと考えてございます。



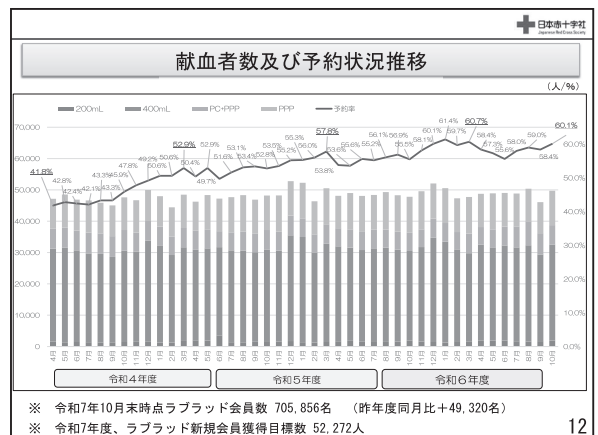
【スライド11】

次にウェブ会員サービス、ラブラッドの活用ということで、令和4年度9月からラブラッドを導入しまして、アプリ版献血カード、事前ウェブ問診機能を導入し、献血の受け入れなど、スムーズに進めている状況です。またプレ会員という登録制度を活用しまして、16歳未満の方々にも登録をいただき、16歳の献血ができる年齢まで、あと何日ですと献血年齢に達した際にご案内させていただく機能です。また献血の事前予約を推進し、必要量も計画かつ安定的な確保に努めている状況でございます。



【スライド12】

次に、献血者数と予約の状況になります。棒グラフにつきましては献血者数、折れ線グラフにつきましては予約状況になります。今年度10月の予約状況が60.1%、半数を超える方々に事前予約により、献血にご協力をいただいている状況がございますので今後も推奨させていただきながらスムーズに献血の受け入れを進めていきたいと考えてございます。



【スライド13】

次に献血サービス、ラブラッドにつきましては、令和8年1月5日から献血カードからアプリへ移行されます。献血カードが廃止されますので、皆さんぜひラブラッドのアプリに加入いただき献血にご協力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

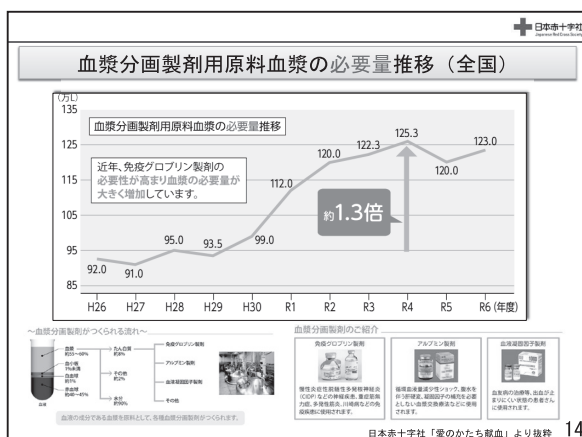
Web会員サービス「ラブラッド」の活用

献血カードから、ラブラッドアプリへ移行します。

さあ行こう、次の時代へ。

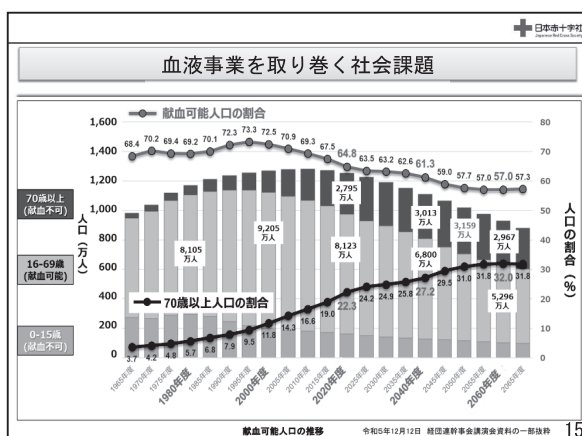
【スライド14】

次に血漿分画製剤用の原料血漿の必要量の推移になります。令和4年度125万Lの確保状況がございますが、昨年度123万L、今年度につきましては124万Lの確保目標量が示されている状況でございます。この必要量につきましては免疫グロブリン製剤の使用量が増加傾向にある状況でございます。



【スライド15】

次に血液事業を取り巻く社会環境の課題ですが、今後献血可能人口がどんどん全国的にも減少していきます。2040年につきましては献血可能人口が61.3%と今後さらなる献血可能人口の減少につながっていく状況がございますので、ますます献血血液の確保に課題が増えていく状況でございます。



【スライド16】

次に、今後の課題への取り組みにつきま
しては、「経済財政運営と改革の基本方針
2025について」令和7年6月13日閣議決定し、
小中学生から献血に対する理解を深めると
ともに、輸血用血液製剤及びグロブリン製
剤、フィブリノゲン製剤等血漿分画製剤の
国内自給、安定確保、適正使用を推進する、
との記載が盛り込まれております。

今後の課題への取り組み

経済財政運営と改革の基本方針2025について

〔令和7年6月13日〕
閣議決定

↓

経済財政運営と改革の基本方針2025を別紙のとおり定める。

第3章 中長期的に持続可能な経済社会の実現
2. 主要分野ごとの重要課題と取組方針
(創薬力の強化とイノベーションの推進) P.43

小中学生から献血に対する理解を深めるとともに、
輸血用血液製剤及びグロブリン製剤、フィブリノ
ゲン製剤等血しょう分画製剤の国内自給、安定確
保、適正使用を推進する。

16

【スライド17】

今後の課題への取り組みとして、まず1つ
目は関係者との連携です。行政、医療機関、
献血の協力団体をはじめとする関係者との
相互の理解を深めて事業を進めていきたく
と考えてございます。

また2つ目につきましては、企業等の団体
献血への再構築ということで、企業等の意
識と重要性の再認識をいただき献血へのア
プローチをしていきたい、または企業等も勤務スタイルに応じた献血推進を進めていきたく
と考えてございます。

3つ目は将来の献血基盤の確立に向けた各年代層への献血推進、特に若年層への献血の協力を含め
て年代別の特性に合わせた献血推進を進めていきながら、初回献血者へのアプローチ、小・中学生の
献血セミナーの増加、ラブラッドを活用した献血への登録、事前予約を推奨していきたいと考えてご
ざいます。

今後の課題への取り組み

○ 関係者との連携強化

- 行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深め、事業を進める。

○ 企業等の団体献血への再構築

- 企業献血の意義と重要性を再認識いただくためのアプローチ
- 企業等の勤務スタイルに適応した献血推進
- 地域に根差した献血推進

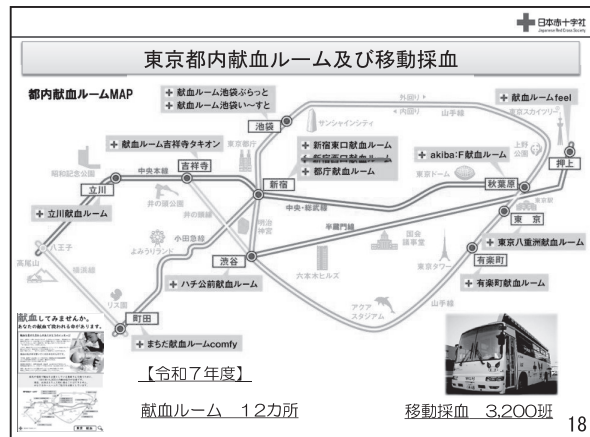
○ 将来の献血基盤の確立に向けた各年齢層等への献血推進

- 若年層献血者の協力強化を含め、年代別の特性に合わせた献血推進
- 初回献血者へのアプローチ
- 小・中・高等学校等での献血セミナーの増加
- 献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を促進
- 「ラブラッド」を活用した献血予約の推進

17

【スライド18】

最後になりますが東京都内の献血ルーム・移動採血につきましては、献血ルームが12カ所、移動採血については3,200班が稼働して今年度の需要に応じた血液の確保に努めております。昨年度8月に豪雨等により新宿西口献血ルームが廃止をされております。来年新宿に献血ルームを新たに設置する計画を進めております。今後とも血液事業にご理解ご尽力を賜り、需要に見合った献血血液の確保に努めてまいりたいと思っておりますので、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。



【スライド19】

ご清聴ありがとうございました。

